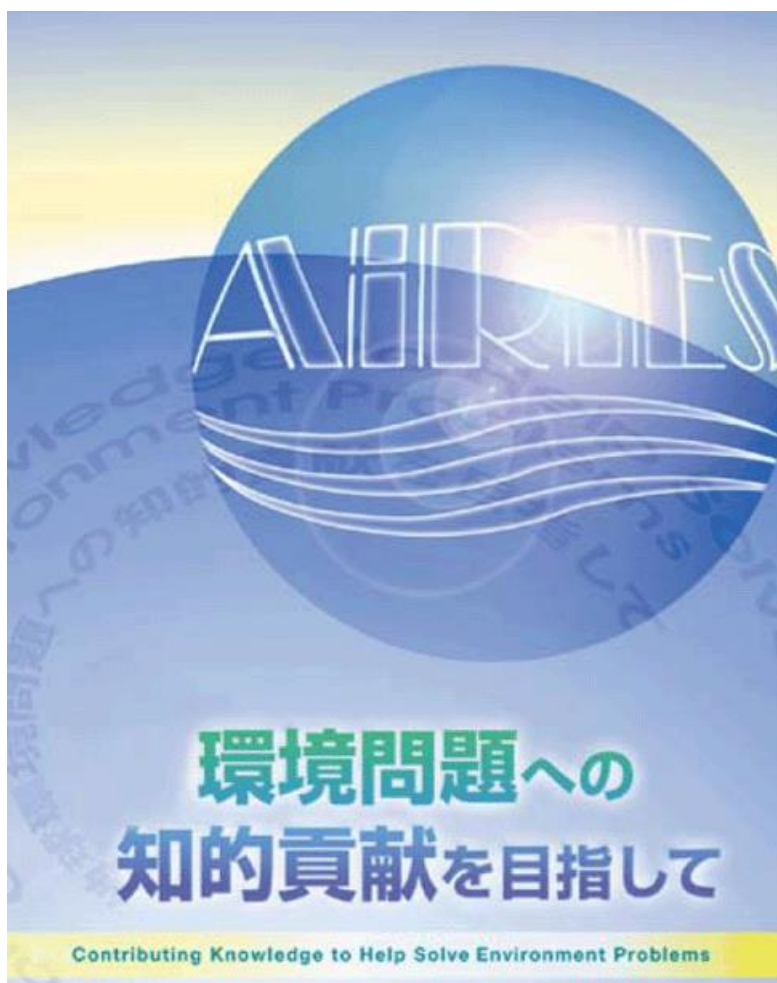


# 国際環境研究協会ニュース

AIRIES NEWS  
AIRIES NEWS

2019年6月 第276号



## CONTENTS

- 1 協会業務報告
- 2 AIRIES 随筆 (114) 「坂東飴と京都」(1)  
坂東 博 (環境研究総合推進費 プログラムアドバイザー/プログラムオフィサー)
- 3 和文会誌 最新号のお知らせ
- 4 温暖化対策最前線 (23) プログラムオフィサー 自己紹介  
太田口 和久 (おおたぐち かずひさ)
- 5 業務報告

# 協会業務報告

徳田博保(専務理事)

4月から5月にかけての最長10連休の大型連休が終わり、祝日がない6月を迎えます。

大型連休前に行われたパーク24株式会社の調査によると、車で出かける人の割合は、76%だったそうです。渋滞に巻き込まれ、運転に疲れた人も多いことでしょう。

この調査結果を年代別にみると、20代が83%で年齢が上がるごとにその割合が減り、60代以上では62%になっています。

最近のように高齢者等による交通事故が相次いで報道されると、あえて連休中には遠出しないお年寄りがさらに増えてくるように思えます。

他方で、ハンドルから手を離れた状態で高速道路の走行が可能な乗用車が発表されるなど、自動運転技術が急速に進化してきているようですから、将来的には高齢者の車利用者が増えるような気もします。

アメリカ運輸省道路交通安全局は、自動運転レベルを、自動運転システムが搭載されていない車両のレベル0から、エリアを限定せずに運転手がいなくても自動走行が可能なレベル5までの6段階に区分しています。(https://www.nhtsa.gov/technology-innovation/automated-vehicles-safety) 現在はレベル2の「部分運転自動化」レベルにとどまっているようで、自宅駐車場の車に乗れば目的地まで自動運転で連れて行ってもらえるという状態になるまでには、自動車技術面に加えインフラ整備、法整備も必要でしょうから、相当時間がかかりそうに見えます。

しかし、欧州委員会が策定した工程表(ロードマップ)では、2030年代にレベル5となる完全自動運転が標準となる社会を目指すことになっているようです。(自動運転ラボ編集部(https://jidouten-lab.com/author/wpmaster))。平成の初めには存在しなかったスマホが爆発的に普及したように、令和

の時代に完全自動運転車が主流になるかもしれません。

完全自動運転が実現すると、高齢になっても免許返上は不要でしょうし、外出を億劫がっていた人が気軽に車で外に出るようになって、交通量は増えるかもしれません。再生可能エネルギーを電源とした電気自動車などでないと、大気汚染や温室効果ガスの問題が悪化しかねません。

さて、協会の業務ですが、CO2排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業については、令和元年度予算の二次募集が行われていて、6月19日に締め切られ、7月中旬から8月上旬にかけて、その採択審査のための分科会と評価委員会が開催されます。

環境研究総合推進費に関する業務については、行政ニーズ形成に向けたプログラムディレクター・アドバイザーによる支援業務、推進費研究課題の追跡評価のための準備等を行っています。7月には企画委員会、追跡評価委員会等も予定されています。

海洋マイクロプラスチックのモニタリング手法の調和等に関する業務については、昨年度同様、法人会員のいであ株式会社と共同実施します。今年度は、相模湾でマイクロプラスチックのサンプリング誤差調査を行い昨年度の国際専門家会合で議論されたモニタリング手法調和化ガイドラインの充実を図るなどの業務を行います。

学術誌については、和文誌は、「日本の山岳保護地域の自然環境管理と持続可能な利用」に続き、「環境計測」を6月に、年度末に「人口減少社会への対応と地域循環共生圏の構築」を発行予定です。また、英文誌は「小笠原保全研究最前線」を年度末に発行予定です。

引き続き、みなさまのご指導・ご支援のほど、よろしくお願いいたします。



# AIRIES随筆(114)

## 「坂東飴と京都」(1)

### 坂東 博(環境研究総合推進費 プログラムアドバイザー/プログラムオフィサー)

「还有其他我想买东西」、「起来！我忘记了那  
个人的纪念品」  
「지금 엇갈린 놈들은 한국인 그림 아닌가?」、  
「Xe buýt đã đến. Nhanh lên!」.....  
「……, Eh bien, à demain」  
「Wanna have a Mac after a long time, …ya?」  
「○▽×&#□ ‘!…, ※◎\$!?!■¥レ△……」  
「今日は何処で食べようかア?」、「あア、そだね  
～……?」……。

週末の、京都四条河原町交差点。

とにかく、前後左右から人の流れが押し寄せ、ほとん  
ど途絶えることがない。信号が変わったことを伝える合成音に混ざって聞こえてくるのは、店舗の呼込みの日本語以外は、斯くのごとくである

稀に日本語の会話も混ざるが、聞こえたとしても音量は小さく控えめであることが、如何にも我が同

朋「らしい」と感じさせる。

十数年前、息子が京都の大学に入学してから数年間、自炊の息子に食料品の差し入れをするという名目をつけては、妻と数か月おきに京都に遊びに来ていた時は、こんな感じではなかった。それが、今では……、「ここは一体、何処の国だ?」。

今になってこんな経験をすることになったのは、縁あって昨年、2018年、11月終わり頃にその雑踏の近くに越すことになったためである。自分自身に何かの思惑や目標・目的があった訳ではなく、身の回り(身内)の状況に飲み込まれて、「エイッ、ヤッ」とその流れに身を任せた結果である。それでも、多少は考えを巡らせた点があるとすれば、それは、「京都」という得体のしれない空間・風土・そこでの生業の有り様、に以前から少し興味があったことである。退職した後の高齢者暮らしの中では、丁度



写真左:暑い日の「坂東飴」屋?さん。お店の看板がなく、何と呼んでいいのかわからない。冬は寒いので、表のガラス引き戸は、閉まっている。

写真右:「御代の石」と名付けられた昔ながらの手作り飴。これも昔ながらのガラス容器に入っている。おばあちゃんによると、この容器、もう手に入らない物だとか。壊されることを心配して、禁触!の大きなシールが蓋の上に貼られている。



良い具合の適度な刺激となるネタがあり、そのネタの数は自分が死ぬまでの間に尽きてしまうことは絶対にないと確信できる場所であったことであろう。まだ、半年程度の（週末のみの）京都暮らしの経験しかないが、その考えは、間違っていなかった（ようである）。

さて、表題に掲げた「坂東飴」。住まいから 200m ほど離れたところにある、古びた小さなお店（「坂東飴」おばあちゃん、ゴメン）の話である。先に京都住まいを始めていた身内に勧められて、京都にいる週末には、ブラリと鴨川縁を散策する。確

か、正月前であったと記憶するが、家に戻る道すがらちょっと気になる風情のお宅があり、ガラス戸越しに中を覗き込むと、昔の駄菓子屋のようにいくつかのガラス容器にアメ玉や煎餅が入れられて、売られているようである。しかし、客も居なければお店の人もいない。興味のままに、ガラス引き戸を開けて中に入っても、声がかかる訳でもなかった。暫くガラス容器のアメ玉などを眺めていると、奥の居間らしきところから、かっぽう着を羽織った八十がらみの女性がでてきて、訝しそうにこちらをご覧になる。これが「坂東飴」のおばあちゃんとの出会いであった。（つづく）

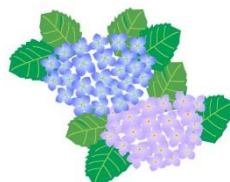
## 和文会誌 最新号のお知らせ



5 月初旬、和文誌 Vol.23No.1&2/2018 日本の山岳保護地域の自然環境管理と持続可能な利用」を刊行しました。

渡辺悌二編集委員長（北海道大学 教授）企画の元、関連書籍を多数出版されている日本ジオサービス(株) 代表取締役 目代邦康氏（東北学院大学 准教授）と共に編纂いただきました。

今特集号では、日本の山岳保護地域における自然環境の多様性と人との関わり、管理上の問題点、気候変動による影響などが議論され、保護地域の意義、将来に向けての役割について考えさせられる内容となっています。是非、ご高覧ください。



## 温暖化対策最前線(23)

### プログラムオフィサー自己紹介

#### 太田口 和久 (おおたぐち かずひさ)

2019.4.1 に国際環境研究協会のプログラムオフィサー(PO)に着任しました。職歴は、University of Minnesota(1978-1980)、東京工業大学(1980-2015)、八戸工業大学(2015-2019)です。宜しくお願ひします。本協会の受託事業の一つが、CO<sub>2</sub> 排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業管理・検討事業ですが、PO として、CO<sub>2</sub> 排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業管理・検討事業の効果的かつ効率的な実施を支援するための業務を担当しています。勤務し2ヵ月が経過しましたが、職場全体に地球環境問題と本気になって取組む姿勢と活気が漲っており、学習ポテンシャルの高い日々を送っています。PO としては、Think Globally, Act Locally を実践している我が国の先駆的事業を支援する業務に当たっています。専攻分野は工学であり、東京工業大学教授在職中は、プロセスバイオテクノロジー、反応工学の体系化を通じ教育研究活動を進めてきました。反応工学講述内容の一つが反応速度の温度依存性に関わるアレニウスの式(1903年ノーベル化学賞受賞者 Svante Arrhenius が考案)ですが、彼は1896年に科学者として初めて大気中CO<sub>2</sub>濃度変化の温室効果を予測したことで有名です。

研究対象としてのCO<sub>2</sub>との付き合いは長く、私の論文に初めてCO<sub>2</sub>が登場したのは1975年です。気液接触装置内を二相流となって流動する水にCO<sub>2</sub>を吸収させ、乱流状態の強弱がCO<sub>2</sub>吸収速度に及ぼす影響分析に携わっていました。次の仕事では、ワールブルグ検圧計を用い、微生物の代謝機能を分析すべく細胞のCO<sub>2</sub>比生成速度に関心を寄せました。CO<sub>2</sub>

への研究姿勢が一変したのは1987年です。この年、Brundland が主導する World Commission on Environment and Development が”Our Common Future”を出版、温室効果ガスCO<sub>2</sub>の大気中の濃度

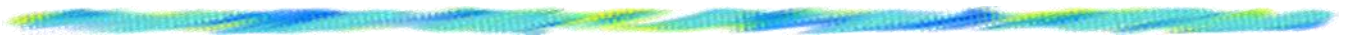
増加は気候変動を齎すと予言、警鐘を鳴らし、行動指針が提示されました。この年、大学の研究室では、CO<sub>2</sub>は除去する対象として明確に位置付けました。微生物培養液という有限の生態系の Population dynamics に長年携わっていたために、地球環境の Population dynamics が予測する人類の未来像への警鐘は共感できる部分が多く、CO<sub>2</sub>除去およびバイオH<sub>2</sub>生成、バイオエタノール生成、CO<sub>2</sub>化学吸収液モノエタノールアミン劣化液再資源化に関する研究などを進め、主として海外学術誌に論文を集積してきました。教授定年退職に伴い研究の場は机上へと変化しましたが、現職は、CO<sub>2</sub>排出削減への貢献が主課題です。この課題に真剣に取り組む実務研究者と接する機会が多く、非力ながら、彼らの研究開発活動を支えたいと考えております。

大学低学年の時、授業中に居眠りをした学生がいました。板書中の教授が板書を中断し、その学生の横に立ち、鬼の形相で、彼に向かいクラス全員を一喝しました。「君達、国立大学の学生は、国民の血税に支えられて勉強している。このことを一瞬たりとも忘れてはいけない。出て行きなさい。」と。当該教授は学科で一番怖いと定評の教員でした。この一撃は、20歳前後のクラス全員の魂の中に強烈な何かを残しました。

昨年、当時15歳であったスウェーデン女学生 Greta Thunberg が Climate crisis に対する大人世代の責任を厳しく批判しました。彼女の父 Svante Thunberg の名は遠縁の上記 Svante Arrhenius 由来と言われています。批判を受けた側の一人として、Our Common Future の Our を若い世代としっかり受け止め、彼らの生活舞台としての地球環境の健



全な姿を確保すべく、我が国で進められている CO2 削減活動に努めようと思います。  
排出削減技術開発・実証取組成果の可視化を意識し



# 業務日誌



(2019年5月)

- 5/7(火):CO2 対策事業 検討会に出席(東京)  
CO2 対策事業 キックオフ会合に出席(環境省)  
CO2 対策事業 打合せ(環境省)
- 8(水):CO2 対策事業 キックオフ会合に出席(環境省)
- 9(木):推進費制度 追跡評価打合せ(協会)  
CO2 対策事業 キックオフ会合に出席(環境省)
- 10(金):CO2 対策事業 キックオフ会合に出席(環境省)
- 13(月):CO2 対策事業 キックオフ会合に出席(環境省)
- 14(火):CO2 対策事業 キックオフ会合に出席(環境省)
- 15(水):CO2 対策事業 検討会に出席(滋賀)
- 16(木):CO2 対策事業 キックオフ会合に出席(環境省)
- 17(金):マイクロプラ事業 打合せ(協会),(海洋大学)
- 20(月):CO2 対策事業 再キックオフ会合に出席(環境省)  
CO2 対策事業 打合せ(環境省)
- 21(火):CO2 対策事業 再キックオフ会合に出席(環境省)
- 25(木):CO2 対策事業 検討会に出席(大阪)  
CO2 対策事業 打合せ(環境省)
- 22(水):企画総務部会を開催(協会)
- 23(木):推進費制度 追跡評価打合せ(協会)
- 24(金),25(土):分離技術学会 年会に参加(名古屋)
- 27日(月):理事会を開催(AP 東京丸の内)  
マイクロプラ事業 海洋調査(テスト)(駿河湾)  
CO2 対策事業 打合せ(環境省)
- 28(火):CO2 対策事業 打合せ(環境省)
- 28(火),29(水):推進費事業 行政ニーズ意見交換会を開催  
(環境省)
- 29(水):CO2 対策事業 再々キックオフ会合に出席(環境省)
- 30(木):推進費制度 追跡評価打合せ(協会)
- 30(木),31(金):マイクロプラ事業 海洋調査(駿河湾)
- \* 推進費制度:環境研究総合推進費制度運営・検討業務  
CO2 対策事業:CO2 排出削減対策強化誘導型技術開発・  
実証事業管理・検討等事業  
マイクロプラ事業:マイクロプラスチックのモニタリング手法  
の標準化及び調和に向けた検討業務

AIRIES NEWS  
AIRIES NEWS

編集・発行

一般社団法人国際環境研究協会

(日本学術会議協力学術研究団体)

〒110-0005 東京都台東区上野 1-4-4

TEL:03-5812-2105

FAX:03-5812-2106

E-mail:airies@airies.or.jp

Homepage:http://www.airies.or.jp